

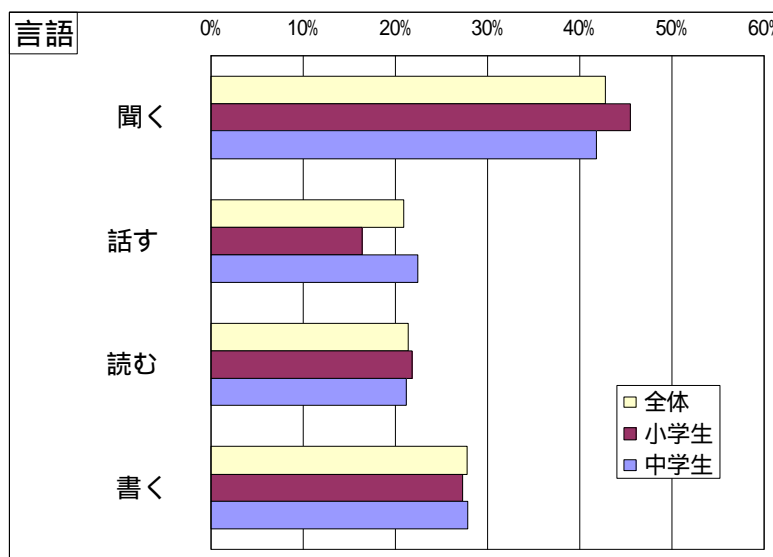
(1) 分野別指摘率の特徴

ア 今年度の特徴

(ア) 言語

「聞く・話す・読む・書く」の言語の4分野で小・中学生全体の指摘率〔図(1) - 1〕を見ると、「聞く」が43%で最も高くなっています。続いて「書く」が28%、「話す」と「読む」がともに21%となっています。

小学生と中学生の指摘率を比較してみると、「聞く」が小学生46%中学生42%でともに他の3分野と比べて、かなり高くなっています。「話す」は、小学生が16%と言語の中で最も低い指摘率を示し、中学生の22%とやや開きがあります。「読む」は、小学生22%中学生21%、「書く」は、小学生27%中学生28%とほぼ同じ指摘率です。

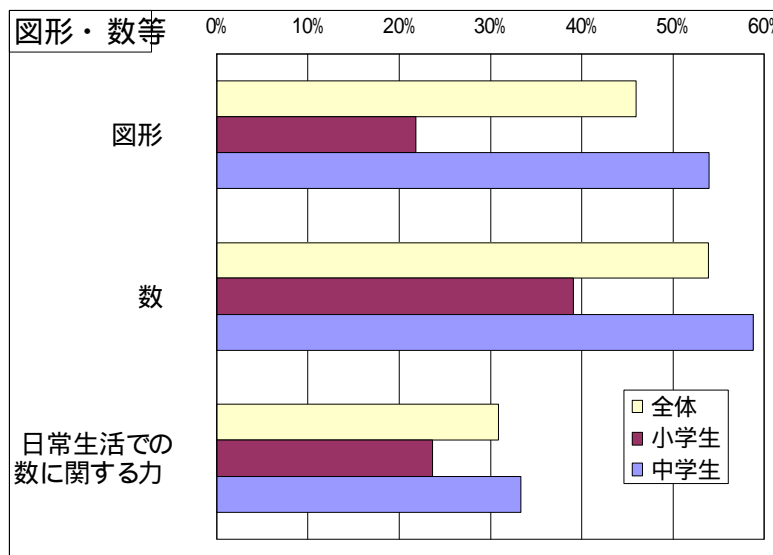


図(1) - 1

(イ) 図形・数・日常生活での数に関する力等

小・中学生全体で見ると、3分野とも高い指摘率を示しています〔図(1) - 2〕。中でも「数」が54%「図形」が46%と非常に高く、「日常生活での数に関する力等」は31%となっています。この特徴は、中学生の指摘率の高さによります。

次に、小学生と中学生を比較してみると、3分野とも指摘率に大きな開きがあります。具体的にあげてみると、中学生では「図形」54%「数」59%で、困難を示す傾向が非常に高く、「日常生活での数に関する力等」は33%とやや低くなっています。小学生では「図形」22%「数」39%「日常生活での数に関する力等」24%と、中学生に比べてかなり低くとどまっています。小・中学生ともに指摘率が最も高いのは、「数」でしたが、低いのは小学生では「図形」、中学生では「日常生活での数に関する力等」でした。



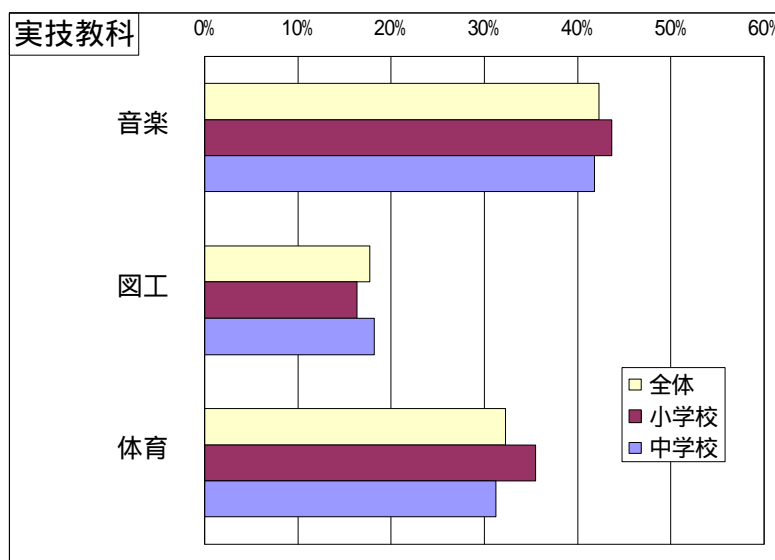
図(1) - 2

(ウ) 実技教科

「音楽・図工・体育」の実技教科について小・中学生全体でみると、3分野のうち「音楽」42%、続いて「体育」32%です。

「図工」が18%と著しく低いのが特徴的です。〔図(1) - 3〕

小学生、中学生を分けて見た場合、小学生、中学生ともほぼ同じ傾向を示しています。「図工」に比べて、「音楽」と「体育」で特に困難を示す傾向が高くなっています。各分野の指摘率は、「音楽」は小学生44% 中学生 42%、「体育」は小学生36% 中学生31%で、「図工」は小学生16% 中学生18%です。

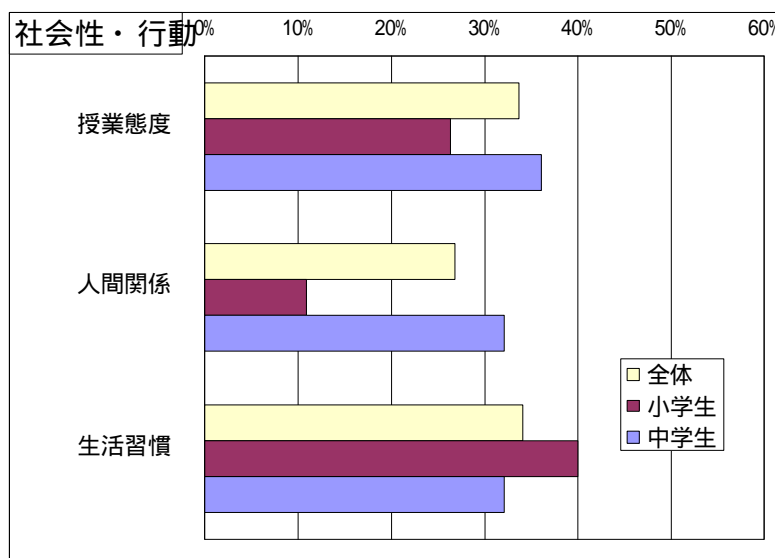


図(1) - 3

(I) 社会性・行動

「授業場面における学習態度・クラスメートや教師との人間関係・生活習慣」において特徴的なことは、小学生と中学生では、3分野ともはっきりと差が見られることです。特に「クラスメートや教師との人間関係」については、中学生では小学生に比べ、困難であると指摘される傾向が高くなっています。「生活習慣」では逆に中学生で低くなります。

小・中学生全体で見ると、「授業場面における学習態度」34%「生活習慣」34%と高く、「クラスメートや教師との人間関係」が27%で比較的低くなっています〔図(1) - 4〕。これは小学生の指摘率が低いためだと考えられます。



図(1) - 4

小学生、中学生を分けて見た場合、中学生は「授業場面における学習態度」36%「クラスメートや教師との人間関係」32%「生活習慣」32%と3分野とも高くなっています。小学生の場合、少し異なります。「クラスメートや教師との人間関係」の指摘率が11%で非常に低く、「生活習慣」が40%と高くなっています。「授業場面における学習態度」は26%です。

イ 平成8年度の調査との比較

平成10年度(以下今回と表記)の調査における小学生の指摘率と、平成8年度(同じく前回)の調査結果をグラフにしてみました。

前回の調査対象は、通常の学級(通級による指導を受ける児童を含む)で学習に困難を示す児童のうち、その困難に偏りのある児童を表し、今回の調査は不登校等を示す児童のうち、その困難に偏りのある児童を表します。

今回と前回の結果を、言語、図形・数・日常生活での数に関する力等、実技教科、社会性・行動についてそれぞれ比較しました。その結果をまとめると、次のようになります。

全体的に見ると、前回の方が高い指摘率

今回が前回は逆転して上回るのは、実技教科の「体育」と社会性・行動の「生活習慣」

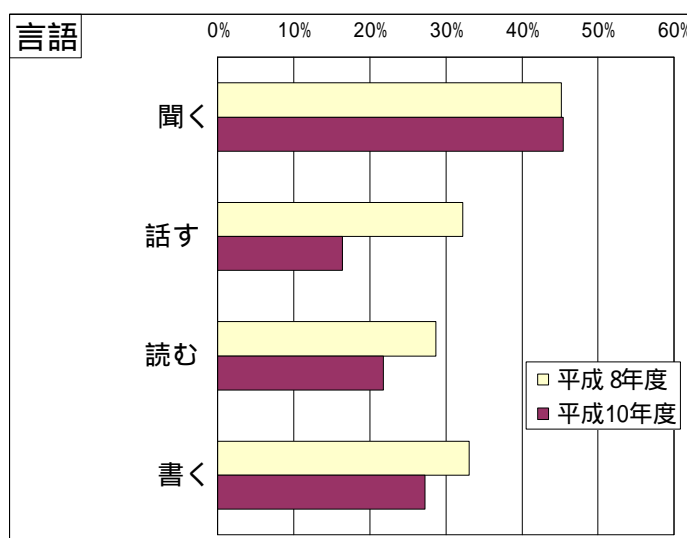
今回が前回は大きく下回るのは、「話す」「図形」「日常生活での数に関する力等」「図工」

以下各領域毎に比較してみました。

(ア) 言語

前回・今回とも困難を示す傾向が最も高いのは「聞く」で、2回とも45%に上ります〔図(1)-5〕。

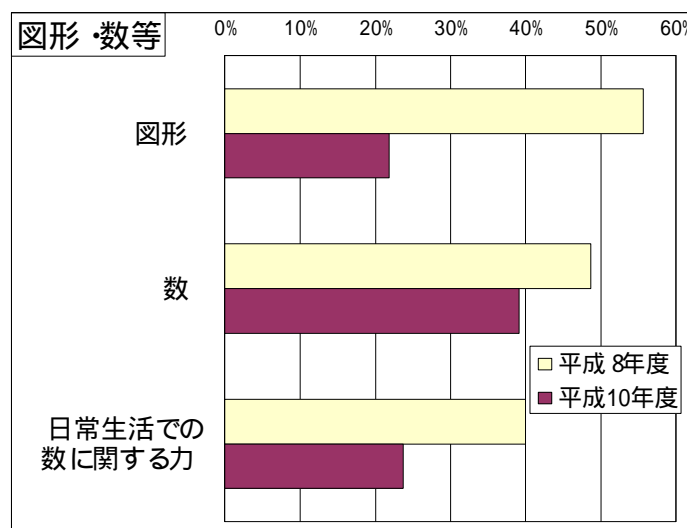
前回の「話す」「読む」「書く」についての結果は、「聞く」ほど高くはありませんが、いずれも30%前後を示し、今回の結果と大きな開きを見せています。特に「話す」については前回32%、今回16%と差が目立ちます。



図(1) - 5

(イ) 図形・数・日常生活での数に関する力等

前回の調査では、「図形」56%「数」49%「日常生活での数に関する力等」40%を示し、今回は「図形」22%「数」39%「日常生活での数に関する力等」24%の指摘率です〔図(1)-6〕。いずれも前回は非常に高くなっています。特に「図形」での指摘率に大きな開きがあり、続いて「日常生活での数に関する力等」「数」の順になっています。

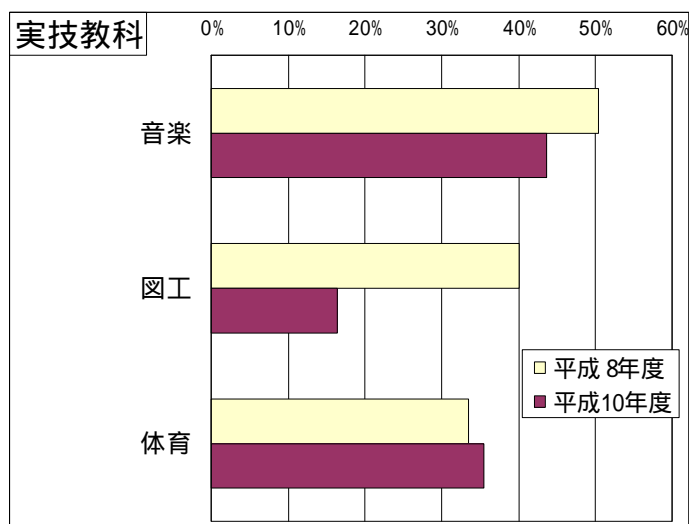


図(1) - 6

(ウ) 実技教科

前回の調査では、「音楽」50%「図工」40%「体育」33%と高い指摘率を示しています。

今回は「音楽」44%「図工」16%「体育」35%とばらつきがあります〔図(1) - 7〕。特に「図工」の結果では、前回と今回に開きが目立ちます。「音楽」も「図工」ほどではありませんが、開きがあります。「図工」「音楽」とも、今回の方が困難を示す傾向が低くなっています。「体育」については、今回の方がわずかに高くなっています。



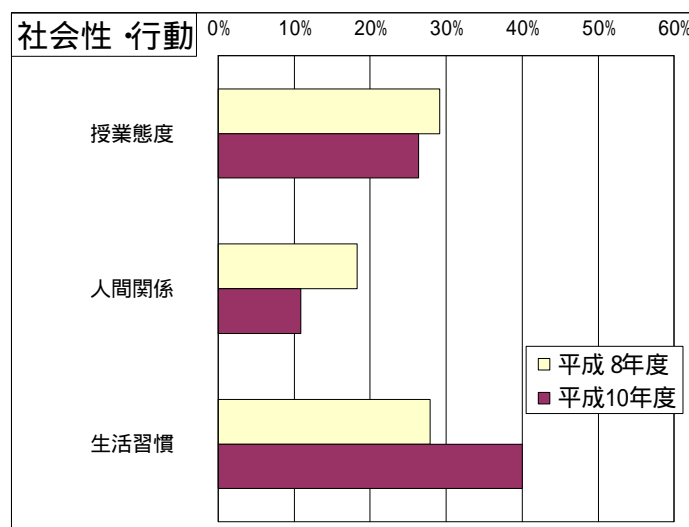
図(1) - 7

(I) 社会性・行動

社会性・行動の3分野で顕著なことは、「クラスメートや教師との人間関係」の指摘率が、前回、今回ともに低いことです。今回の調査で、すでに中学生との開きが大きいは述べましたが〔図(1) - 2〕、前回の調査と比べても今回が低くなっています。

また「生活習慣」について、今回の調査では40%と非常に高い値を示し、前回の28%を大きく上回っています。この様に前回よりも今回の指摘率が大きく上回ったのは「生活習慣」のみでした〔図(1) - 8〕。

前回の調査結果は、「クラスメートや教師との人間関係」が18%で低く、「授業中の学習態度」29%は「生活習慣」28%とほぼ同じでした。また、今回の調査結果は、「授業中の学習態度」26%「クラスメートや教師との人間関係」11%「生活習慣」40%となっています。



図(1) - 8